1 話し手の情報源を表す標識 (§17.1)

- 話し手の情報源を表すような文法形式を**証拠性** (evidentiality) の標識という。
- 証拠性は、認識モダリティの一部とされることもあるが、そうではなく、別個の概念である。
- 証拠性が
  - 発話行為 (speech act) の修飾要素として、使用条件的意味 (use-conditional meaning) に関与する言語もあれば、
  - 命題内容に影響を与え、真理条件的意味に関与する言語もある。

(1) タガログ語 (Schachter and Otanes 1972:423)

Mabuti *raw* ang=ani.
good HEARSAY NOM=harvest
「収穫高はよい**そう**だ。」

2 よくある証拠性のシステム (§17.2)

直接的 (direct) 知識と間接的 (indirect) 知識

- 直接的知識：話し手自身が見たり、聞いたり、感じたりして、直接経験して得られた知識。
- 間接的知識：他人から伝聞したり、観察から推測したり、過去の知識から推測して得られた知識。

(2) チェロキー語（アメリカ）

a. 直接的知識：-ʌʔi
b. 間接的知識：-eʔi

より複雑なシステム

(3) Huallaga Quechua（ペルー）(Weber 1989:421)

a. Qam-pis maqa-ma-shka-nki =*mi*.
you-also hit-1.OBJ-PRF-2.SUBJ =DIRECT
「お前も俺を殴った。」（俺はそれを見た／感じた。）

b. Qam-pis maqa-ma-shka-nki =*shi*.
you-also hit-1.OBJ-PRF-2.SUBJ =HEARSAY
「（誰かが） お前も俺を殴った（と教えてくれた）。」（俺は酔っていて、覚えていないが。）

c. Qam-pis maqa-ma-shka-nki =*chi*.
you-also hit-1.OBJ-PRF-2.SUBJ =CONJECT
「（推測するに）お前も俺を殴った。」（俺は集団に襲われ、お前もその一味だと思う。）

(4) Tuyuca（コロンビア） (Barnes 1984)

a. díiga apé-wi
soccer play-VISUAL
「彼はサッカーをした。」（私は彼がするのを見た。）

b. díiga apé-ti
soccer play-NONVISUAL
「彼はサッカーをした。」（私は試合の音と彼の声を聞いたが、見はしなかった。）

c. díiga apé-yi
soccer play-INFERENCE
「彼はサッカーをした。」（私は彼がしたという証拠を目にした。競技場にあった彼の特徴的な足跡だ。しかし、私は彼がするのを見てはいない。）

d. díiga apé-yigi
soccer play-HEARSAY
「彼はサッカーをした。」（私は他人から情報を得た。）

e. díiga apé-hĩyi
soccer play-ASSUMED
「彼はサッカーをした。」（彼がしたと想定するのが妥当だ。）

3 証拠性と認識モダリティ (§17.3)

- すべての言語が「〜と聞いた」、「明らかに〜」のような語彙的表現を持つが、これらは文法的標識ではないので、証拠性の標識とは普通、考えない。
- モダリティや時制が二次的に証拠性的意味を持つことがある。(5)
- 厳密な定義では、これらは証拠性の標識ではない。
- Aikhenvald (2004) によれば、世界の言語の約 4 分の 1 が（厳密な定義での）証拠性の標識を持つ。

(5) ドイツ語 (von Fintel 2006)

Kim *soll* einen neuen Job angeboten bekommen haben.
Kim should a new job offered get have
'Kim has supposedly been offered a new job.'

- 証拠性は単に情報源を述べるもので、話し手の命題内容に対する確信度とは独立した概念。

- 証拠性は認識モダリティの一種ではない。

4 証拠性と時制・モダリティとの区別 (§17.4)

- 話し手の確信度は、直接的経験により得た知識の方が、伝聞や推測により得た知識より高い。
- よって、直接的知識（証拠性）≈ 強い確信度（モダリティ）、間接的知識 ≈ 弱い確信度。
- この相関が成り立たないような状況を検討することで、証拠性とモダリティの区別ができる。

(6) かなり確信度が高いが、確実に直接経験に基づかない叙述に生起する標識

a. 確信度が低いときと同じ形式 → 証拠性

b. 確信度が低いときと異なる形式 → モダリティ

(7) ［まだ癌になっていないヘビースモーカーの発言］

a. タバコを吸いすぎると癌になる**そう**だ。

b. タバコを吸いすぎると癌になり**そう**だ。

c. タバコを吸いすぎると癌になる**よう**だ。

d. タバコを吸いすぎると癌になる**らしい**。

cf. タバコを吸いすぎると癌になる-かもしれない- {そうだ／ようだ／らしい}。

問 上の日本語の証拠性の標識がそれぞれどのような種類の証拠を表すか考えよう。

5 二種類の証拠性 (§17.5)

発話内行為的証拠性 (illocutionary evidentials)

- 発話内行為に対する修飾要素。
- 命題内容に影響を及ぼさない。
- 否定などの命題に対する演算子の作用域に生起しない。

(8) クスコ・ケチュア語 (Faller 2002:§6.3.1)

Ines-qa mana=s qaynunchaw ñaña-n-ta-chu watuku-rqa-n.
Inés-TOP not=REPORT yesterday sister-3-ACC-NEG visit-PAST$_1$-3

命題内容 =「イネスは昨日姉（妹）を訪ねなかった。」
証拠性の意味 = 話し手はイネスが昨日姉（妹）を訪ねなかったと告げられた。
≠ 話し手はイネスが昨日姉（妹）を訪ねたと告げられなかった。

- 証拠性の意味は命題内容（真理条件的意味）の一部ではないので、その真偽に異議を

表明することができない。

(9) クスコ・ケチュア語 (Faller 2002:§5.3.3)

a. Ines-qa qaynunchay ñaña-n-ta=s watuku-sqa.
Inés-TOP yesterday sister-ACC=REPORT visit-PAST$_2$
命題内容 =「イネスは昨日姉（妹）を訪ねた。」
証拠性の意味 = 話し手はイネスが昨日姉（妹）を訪ねたと告げられた。

b. Mana=n chiqaq-chu. Manta-n-ta-lla=n watuku-rqa-n.
not=DIRECT true-NEG mother-3-ACC-LIMIT=DIRECT visit-PAST$_1$-3
「そうではない。彼女は母親を訪ねただけだ。」

c. Mana=n chiqaq-chu. #Mana=n chay-ta willa-rqa-sunki-chu.
not=DIRECT true-NEG not=DIRECT this-ACC tell-PAST$_1$-3S.2O-NEG
「そうではない。#あなたはそうは告げられていない。」

- 話し手は命題内容の真偽にコミットする必要ない。

(10) クスコ・ケチュア語 (Faller 2002:194)

Para-sha-n=si, ichaqa mana crei-ni-chu.
rain-PROG-3=REPORT but not believe-1-NEG
「雨が降っている（と誰かが言う）けど、私はそうは思わない。」

- 証拠性の標識は、発話内行為の修飾要素のため、主節にのみ生起し(11a)、情報源は話し手にとっての情報源(11b)。

(11) クスコ・ケチュア語 (Faller 2003: 例 8, Faller 2002: 例 184)

a. Mana(*=si) para-sha-n-chu chayqa ri-sun-chis.
not=REPORT rain-PROG-3-NEG then go-1.FUT-PL
「もし雨が降っていなければ、私たちは行きます。」

b. Pilar-qa yacha-sha-n Marya-q
Pilar-TOP know-PROG-3 Marya-GEN
hamu-sqa-n-ta{=n/=s/=chá}.
come-PAST.PTCP-3-ACC{=DIRECT/=REPORT/=CONJECT}
命題内容 = 「ピラルはマリヤが来たと知っている。」
証拠性の意味 = 話者はピラルはマリヤが来たと知っていることについて、直接的／伝聞による／推測による証拠を持っている。
≠ ピラルは自分がマリヤが来たと知っていることについて、直接的／伝聞による／推測による証拠を持っている。

命題的証拠性 (propositional evidentials)

- 命題内容に影響を及ぼす。
- ドイツ語、トルコ語、ブルガリア語、St'át'imcets（リルエット・セイリッシュ語）、日本語（？）
- 主節以外にも生起し(12a)、話し手以外の情報源も表し得る(12b)。

(12) a. (?) 東京で雪が降る-**らしい**-なら、埼玉でも降るだろう。
b. 聡が国際社会学部に転学部するつもり-**らしい**と直美が教えてくれたが、そんなことはとっくに知っていた。（私は入学当初、聡の転学部作戦について聡本人から直接聞いていた。）

- 話し手は命題内容が真である（可能性）にコミットする。

(13) St'át'imcets (Matthewson et al. 2007)
［ある会社のために仕事をし、その会社は給料 200 ドルを銀行口座に振り込んだと言った。しかし、実際には、会社は何の支払いもしていなかった。］
*Um'-en-tsal-itás ku7 i án'was-a xetspqíqen'kst táola, t'u7 aoz
give-DIR-1SG.OBJ-3PL.ERG REPORT DET.PL TWO-DET hundred dollar but NEG
kw s-7um'-en-tsál-itas ku stam'.
DET NOM-give-DIR-1SG.OBJ-3PL.ERG DET what
「彼らは私に 200 ドルくれた［と告げられた］が、彼らは私に何もくれなかった。」

(14) ✓ 昨日、会社が給料を振り込んだ-**らしい**。でも、会社は給料を振り込んでいなかった。[*1]

参考文献

Aikhenvald, Alexandra Y. 2004. Serial verb constructions in typological perspective. In *Evidentiality*. Oxford: Oxford University Press.

Barnes, Janet. 1984. Evidentials in the Tuyuca verb. *International Journal of American Linguistics* 50:255–271.

Faller, Martina. 2002. Semantics and Pragmatics of Evidentials in Cuzco Quechua. Doctoral Dissertation, Stanford University. URL `http://personalpages.manchester.ac.uk/staff/martina.t.faller/documents/thesis-a4.pdf`.

Faller, Martina. 2003. Propositional- and illocutionary-level evidentiality in Cuzco Quechua. In *The Proceedings of SULA 2 (The Second Conference on the Semantics of Under-Represented*

[*1] (13) の文脈ではなく、明細を見て振込みがあったことを推測した場合には、2 文目と矛盾が生じるため、不適格になる。

Languages in the Americas),Vancouver, BC, ed. Jan Anderssen, Paula Menendez-Benito, and Adam Werle, 19–33. Amherst: GLSA. URL `http://www.umass.edu/linguist/events/SULA/SULA_2003_cd/files/faller.pdf`.

von Fintel, Kai. 2006. Modality and language. In *Encyclopedia of Philosophy*, ed. Donald M. Borchert, volume 10, 20–27. Detroit: MacMillan Reference USA, 2 edition.

Matthewson, Lisa, Henry Davis, and Hotze Rullmann. 2007. Evidentials as epistemic modals: Evidence from St'át'imcets. *Linguistic Variation Yearbook* 7:201–254.

Schachter, Paul, and Fe T. Otanes. 1972. *Tagalog Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.

Weber, David J. 1989. *A grammar of Huallaga (Huánuco) Quechua*. Number 112 in University of California Publications in Linguistics. Berkeley: University of California Press.